Discovery skill

知ってそうで
知らない技能の魅力

ものづくりの力・再発見!!

シリーズ2

私たちの暮しの中で欠かせない、ものづくりを支えている数多くの技能職種。その中でも和室は日本人ならではの癒しの空間。例えば、家具・建具・畳・表装など、その歴史は古く時代の流れと共に進化しながら、それぞれの先人たちの技能によって確立され受継がれてきた財産です。知ってそうで知らない高度な技能と知識に卓越した職人気質に裏付けされる、ものづくりの魅力を技能検定の職種や技能五輪の競技職種を通してご紹介します。

木工分野における
最高水準の技能と
味わい深い和風文化の
象徴といえる建具!

建具

建具は建物の外部の出入口の風雨から守り外観を整えるものと内部の個室の出入口・大部屋の間仕切りから和室の襖・障子・欄間など、その建物や部屋を美しく創り上げています。最近はアルミ製・樹脂製が多くなりましたが、木製は高度な技能と数多くの道具を必要とし、熟練と経験が問われる技能です。特に和室の襖・障子・欄間などは通風・採光の調節などの用途に装飾性も加わり、その細工も多彩な種類があり木工分野では最高水準ともいえ、広く奥深い高度な加工技能が建具職種の魅力です。

◀第50回技能五輪全国大会の課題作品

時代が変わろうとも
どの家にもある畳の和室。
日本の家にしっかりと
定着した畳職人の技!

畳製作

畳の歴史は奈良時代から始まり主に座具・寝具とした置き畳が主流でした。その後、部屋全体に畳を敷きつめるようになり、江戸時代は武士や貴族の富を象徴するもので、明治から戦後かけて一般に普及しました。畳に使用するイ草はわらに比べて柔らかく肌触りも滑らかな体にやさしい天然素材といわれ、茎にはたくさんの穴があきクッションの働きがあり、そこに空気がたまり熱を伝えにくくし、夏涼しく・冬あたたかい断熱効果があります。また、畳干しや畳表を裏返しに張り替えするなど、こまめな手入れで長もちするのも畳の特徴です。

技能検定とは

技能検定は、「働く人々の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度」です。技能検定は、技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき実施されています。技能検定を実施している職種は、136職種にのぼります。(2011年2月現在)
技能検定には、現在、特級、1級、2級、3級に区別するもの、単一等級として等級を区別しないものがあります。

特　級	管理者または監督者が通常有するべき技能の程度	2　級	中級技能者が通常有すべき技能の程度
1級及び単一等級	上級技能者が通常有すべき技能の程度	3　級	初級技能者が通常有すべき技能の程度

技能検定の合格者には、厚生労働大臣名(特級、1級、単一等級)または都道府県知事名(2級、3級)の合格証書が交付され、技能士と称することができます。また、技能検定合格者には、他の国家試験の受験や資格取得に際して特典が認められる場合があります。

木の肌触り・木目模様のぬくもりが
人の心を癒し、使い込むほど
愛着がわく家具づくり!

家具

私たちに馴染みの深い家具には、箪笥や書棚のように板材が主体の「箱物類」と机や椅子のように角材が主体の「脚物類」に区別し、箪笥・書棚には箱部・引き出し部・扉部があり、机には甲板・脚部・引き出し部、椅子は脚部・座板・背板・ひじ掛け部で構成されており、構成部材や加工機械・工具は少し異なりますが、基本的な技能はほぼ同じです。技能五輪の競技課題でもそれぞれの加工技能により木の性質を見抜いた緻密な計算と加工方法の知識や道具選びが確かな家具づくりに不可欠な技能です。

◀第50回技能五輪全国大会の課題作品

歴史を物語る書画や絵画を
さらに彩る表装。
その高い技能が
いまも受継がれ蘇る!

●1級表装技能士 堀 安二さん

表装

表装とは、書画や絵画などの観賞や保存のために掛軸・額・屏風・衝立・巻物などそれぞれの形式によって仕立てあげるものです。表装の歴史は古く奈良時代より、仏教の経巻の表装が盛んに行われ、その後書画や絵画の表装に移り変わり、書院や床の間に飾る観賞用として発達し、時代の好みや特色が反映された高い技能です。現在では過去の寺院・仏閣の屏風や掛軸などの貴重な文化財を後世に残すための修復技法が有名で、県内には現代の名工に選ばれた堀安二さん(72歳)が過去と未来の文化の橋渡し役としてがんばっています。

●幕末時代(1864年頃)の「金剛界曼荼羅」掛け軸の修復